



2022年10月21日

各位

会社名 東映アニメーション株式会社
代表者名 代表取締役社長 高木 勝裕
(コード:4816、東証スタンダード)
問合せ先 専務取締役 吉谷 敏
(TEL. 03-5318-0639)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年5月12日付「2022年3月期 決算短信」にて発表いたしました、2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の連結業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期連結業績予想の修正

(1) 第2四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想(A)	36,700	9,100	9,800	7,000	171円15銭
今回修正(B)	42,400	14,100	15,500	11,500	281円21銭
増減額(B-A)	5,700	5,000	5,700	4,500	—
増減率	15.5%	54.9%	58.2%	64.3%	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2022年3月期 第2四半期)	29,740	11,138	11,082	8,144	199円15銭

(2) 通期(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	70,000	18,300	18,900	13,500	330円08銭
今回修正(B)	76,000	23,500	25,000	18,000	440円15銭
増減額(B-A)	6,000	5,200	6,100	4,500	—
増減率	8.6%	28.4%	32.3%	33.3%	—
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	57,020	18,107	18,822	12,820	313円46銭

2. 修正理由

第2四半期連結会計期間は、映画『ドラゴンボール超 スーパーヒーロー』や『ONE PIECE FILM RED』が大ヒットしたことに加え、両作品の公開に伴い国内外の商品化権、ゲーム化権、並びに配信権販売が期初見込みを上回り好調に推移しました。

通期については、引続き第2四半期連結会計期間以降も、国内外の版權事業や映像製作販売事業が好調を維持するものと見込み、上記の予想としております。

※上記の予想は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上